EAMS社製 農業用ドローンをお使いの皆さまへ

機体運用上の注意について

ちゅういいちびょう　　けがいっしょう

注意一秒 ⚠ 怪我一生

⚠ 機体操作方法の把握

運用手順外の操作を実施して事故につながるケースがあります。

例：AB モードのまま手動着陸を試みて、その際にスティック操作が入り横に 4m 移動し機体が転倒。

➡ 手動であれば GPS モードに切り替えて、着陸は着陸スイッチを使用してください。
自動で行いたい場合は RTL スイッチで行うのが正しい運用方法になります。
必ず自分が飛行させている機体の運用手順・操作方法等を把握するようにしましょう。

⚠ 着陸後のモーター完全停止確認

着陸後、まだプロペラが回っている状態の時があります。

この場合はまだ機体が停止していません。

完全停止前の誤った操作によって予期せぬ挙動で事故につながるケースがあります。

例：手動で着陸させたが、プロペラが止まりきっていないのにスロットルを戻したせいで再び離陸した。

➡ 必ずモーターが完全に停止した状態（ディスアーム）になるまで操作してください。
状況によってモーターが停止ない場合があります、その際は緊急モーター停止スイッチ（3秒長押し）を使用するなどして安全に停止操作を行なってください。

⚠ 飛行場所の環境把握

自動飛行中に電柱や電線・支線に衝突し墜落するケースがあります。

例：自動飛行で帰還中に電柱に衝突した。　自動飛行中ターンの際に支線にひっかかり墜落した。

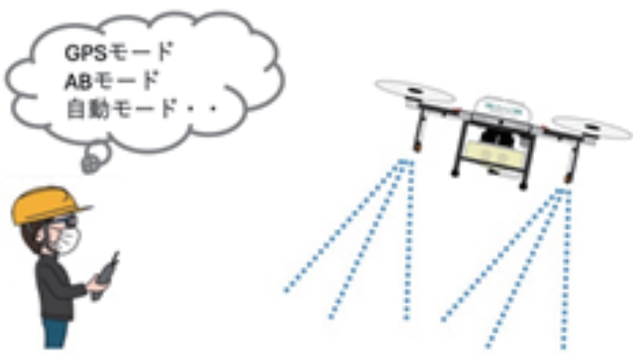
➡ ソフト上で自動ルートを作成したが、現地で実際の障害物との位置関係がわかっておらず、
自動飛行を実行したために事故につながった事例です。
必ず飛行させる前には航路上に障害物がないか確認してください。
自動飛行の場合は機体の帰還ルート含め経路上の障害物や環境を確認して十分な離隔距離を保てるようなルート設定を心がけてください。

機体運用における注意事項

下記３点は特に事故につながる恐れのある重要な事項になります。
機体運用の際は必ず遵守して飛行させてください。

① 機体操作方法を把握しましょう

運用手順外の操作を実施して事故につながるケースが発生しております。
必ず自分が飛行させている機体の運用手順・操作方法等を把握するようにしましょう。



② 着陸は必ずモーター完全停止まで行うこと

着陸後、プロペラが回っている状態はまだ機体が停止していません。
完全停止前の誤った操作によって予期せぬ挙動で事故につながるケースが発生しております。
必ずモーターが完全に停止した状態（ディスアーム）になるまで操作してください。

③ 飛行させる圃場環境の把握をしましょう

自動飛行中に電柱や電線・支線に衝突し墜落するケースが発生しています。
必ず自動飛行する場合は機体の帰還ルート含め経路上の障害物や環境を確認してルート設定してください。